

令和7年度

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

ウィズブック保育園富士見台Ⅱ

## 1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

五感で感じ表現する（言葉）

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

当園では「五感で感じ表現する」ことを保育の中で大切にしており、その中でも言葉への興味関心が強く見られているためテーマとして設定した。日頃から見聞きしたものを言葉にしたり尋ねたりする姿が見られたり、街で外国人の方に挨拶をされる機会もあったことから、言葉の響きや違い、表現について子どもたちの興味関心をさらに深めていきたいとこのテーマを設定した。

## 2. 活動スケジュール

6月：様々なものの英語の表現と日本語の表現に触れ、興味を示し関心が高かったものを探求する

9月：車の役割や仕事に興味を持ち、本物の車を実際に見て、色や大きさ、音などを体感する

11月：自分で製作した車を通して、友だちや保育者、英語講師とのコミュニケーションを楽しむ

1月：様々な物の日本語と英語の違いに触れ、発語したり言い比べたり表現することを楽しむ”

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

外国人講師とのオンラインによるリアルタイムでの英語プログラムを導入、映像を投影し大画面で行えるよう環境を整えた。地域の消防署見学に行き、実際に本物を間近で見たり触れたりする体験をした。車の玩具、製作の材料、日本語と英語が両方載っている図鑑を用意した。”

## 4. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

外国人講師（外部委託）とオンラインで英語プログラムを行う中で、やり取りやジェスチャーを楽しみ、子どもたちが興味を持った言葉や表現から興味のあるものを探求し、遊びを展開。車のイラストへの興味が深く、いろいろな車がある中で車によってどんな名称があるのか、救急車とアンピュランスは同じものなのになぜ言い方が違うのか、車はどんな働きや音をしているのか等の興味を広げ車の玩具を使い遊びながら働きや音、英語との表現の違いを知っていった。

地域の消防署見学に行き、本物の消防車を間近で見たり試乗したりする体験をする中で日本語と英語の表現の違いについても触れ、消防車の働きを学ぶ。消防車見学の経験を活かして消防車の製作を実施。各パーツの名称や働きを知りながら製作を行い、製作後はそれぞれが作った製作物を用いて遊びを展開。英語講師に消防車を見せやり取りを行った。図鑑を使用し様々な言葉の違いに触れ、言葉や音の違いを楽しみ、発語や表現などを比較をして楽しんだ。”

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

6月：英語プログラムの中で乗り物が出てきて、車のイラストを見て「ピーポー」「ウーカンカン」と音を言葉にして答える姿があった。「消防車」と「アンピュランス」という表現の違いにも興味を抱いていた。実際に車を使って遊ぶ際には道路マットを出し、「消防車はどこに行く？」「救急車はどこに帰る？」と想像が広がるような声掛けを保育者が行っていった。特にバスを使うときには、ブロックの人形をお客さんに見立てて、「ゆっくり走ります」「お客さんです」と保育者の模倣をしながら遊びを展開していく姿が見られた。子ども同士でも「すすんでください」「ここがおうちだよ」「これは消防車でアンピュランス」とやりとりや表現の違いを楽しむ様子があった。

10月：地域の消防署見学に行き、本物の消防車を間近で見る体験をした。消防車の色や大きさについて「あかい」「おおきい」など気づいたことを言葉で表現する姿があり、英語プログラムでできた「Big」「Red」「Ambulance」の言葉を交え日本語と英語の違いにも触れながら、消防車試乗させてもらったり消防車の働きを知って楽しんでいった。

11月：写真を見たり、見学で実際に見た消防車を思い出しながら、消防車の製作を行った。パーツごとに「これはなに？」と聞いていくと「はしご」「ホース」と子どもたちから答えが出てくる姿があった。「ライトはここだよ」と保育者や友だちと会話しながら製作を楽しんでいた。完成したものを遊びに使うと「火事です！」「ウーカンカン！」「けがにんです！」と子どもたちが自分自身でやりとりを発展させて遊びを深めていく様子が見られた。消防車への興味や関心が深まると、絵本を見て車体に書いている文字や英単語を指さし「これは？なんて読むの？」と問いかける姿も見られるようになった。また英語講師に消防車を見せ、英語で各パーツを言葉にしてもらい、模倣してやりとりを楽しむ姿があった。

1月：図鑑を見ながら消防車はじめ様々な乗り物などの言葉の違いに触れ、保育者が言って見せると同じように発語しようとする姿が見られたり、友だち同士で言い合ってみる様子があった。保育者が日本語と英語両方の言葉で同じものを伝えてみせると「ぜんぜんちがう」「日本語と英語でおなじ言いかたなんだね」と言語の違いに気づき、楽しむ様子が見られた。また図鑑を見ながら英語プログラムに出てきたものを思い出して言葉にする姿もあった。”

## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは英語というものに抵抗なく見聞きすることを楽しんでおり、聞こえてきたことを自然と真似したり繰り返して言葉にして発する様子がある。元々親しみのあった乗り物に対してはさらに英語への意欲が増した様子があり、色々な表現の方法があることを自然に受け入れているように感じた。本物の消防車を前にすると、興奮しながらも自分の知っていることを次々と口にしていて、その中で英語の表現を耳にしたことで当たり前のように英語表現を次々に口にする姿に子どもたちは英語と日本語の隔たりを感じず自然に感じ表現していると感じた。実際に消防車を見たことでより乗り物への興味や関心が深まり、自分で図鑑や写真を見ながら「このはしご見たよね」「ホースは長かったね」と感じたことを言葉にしながら製作を楽しんでいると感じた。消防車に興味を持つことで、図鑑に書いてある英単語にも興味を持ち、「なんて読むの？」「これは何？」と保育者や英語講師に尋ねる場面もあり、自然と英語に触れる機会も増えたと感じた。日々英語に触れることで、日本語と英語の違いは感じつつも、抵抗感はなくどちらの言語も受け入れていくことができていると感じた。また発語し表現を楽しみながら自然と日本語と英語の比較や同じところを探したりなど楽しむことで子どもたちの探求意欲が自然と高まり興味関心が広がっていくと感じた。